全国ほんもの体験ネットワーク・全国教育民泊協会の加盟地域

教育効果の高い 体験交流が不可欠

ロシアのウクライナ侵攻から3年が経過し、ようやく休戦に向けて動き出しました。また、休戦するはずのイスラエルからパレスチナ・ガザ地区への攻撃が行われ、一般市民も多くの犠牲者が出ており、本当の収束が待たれます。＝【平和学習】

昨年の元日には能登半島地震が起こり、9月にまた能登半島で線状降水帯による大雨洪水による土砂崩れも起こり甚大な被害が出ました。早い復興が待たれます。＝【震災防災・環境学習・エネルギー問題】

若者の闇バイトが急増し、強盗や窃盗事件が多発、若年層の犯罪が増加しています。また、物価高に賃金の上昇が追いつかず、貧困格差は広がるばかりで、社会の先行き不安は結婚願望までも衰えさせています。したがって、少子化や人口減少にも歯止めがかかりません。＝【貧困格差・社会不安・人口減少】

学校教育現場での課題・いじめ73万2568件、小中高校不登校41万5252人といずれも過去最高・最悪の結果となりました。＝【人間関係・社会環境】

スマートフォン・SNSによる犯罪が増え続けています。豪州では国家として初めて16歳未満のSNS利用を禁止する法案が可決しました。暴力的な動画などの有害なコンテンツやいじめから未成年者を保護する狙いがあります。日本でも、便利さの陰でスマホなどの弊害は気づかないうちに心や生活の中に侵食しています。ゲームなどの課金、過剰な画面を見る時間、それによる近視の増加、睡眠不足。学習時間、野外活動時間、コミュニケーション機会の激減、サイトやアプリによる男女関係や闇バイトなど非行への誘導も多く、大人がだまされている中にあって、人生経験の少ない年代で文字面からは虚偽や善悪の判断が難しい。

多くの社会問題が山積する中にあって、SDGs＝「持続可能な新しい価値創造」を考えるプログラムは、教育旅行での訪問地域の課題に対してその対応策を考えるもの。つまりは、他人事を自分事にして、その課題に取り組む姿が、求められている探究学習となります。コロナ禍で失った教育機会をどう取り戻すべきか、大きく変化しようとしています。

修学旅行においても、従来の観光旅行では手ごたえがない。海外旅行は円安の影響が大きく、旅行費用も大幅にアップしています。かくなる上は距離ではなく、国内旅行へ。①人とのかかわり、人間関係構築機会②自然との関わり③食育・漁食振興、手作りの食事④キャリア教育⑤SDGsなどの探究学習―など、教育効果の高い体験交流が不可欠であり、中でも教育民泊の役割は極めて大きい。それらのニーズにお応えできる「全国ほんもの体験ネットワーク・全国教育民泊協会」会員の本紙掲載地域への修学旅行などをお勧めいたします。

全国ほんもの体験ネットワーク会長／全国教育民泊協会会長／体験教育企画代表取締役　藤澤安良

探究学習とキャリア教育を

北海道・標津

北方領土の平和学習と民泊、鮭の聖地体験

【知床の自然環境・産業・食・平和学習・歴史文化】　世界自然遺産知床の南に位置する当町は、海、山、川、大平原のあらゆる資源に囲まれ、1万年の間、人々が暮らし続けている痕跡が残る唯一の地域。北は秘境、知床国立公園の山々が連なり、東の海岸から24㌔先に北方領土国後島が望め、内陸にはミルクの里の雄大な牧草地群が広がっております。1万年続く暮らしを体感する歴史文化に基づく地域ストーリーを軸に、地域の人々の暮らしに触れる教育旅行の受け入れを行っております。

原始河川、ポー川でのカヌー体験

【食と産業への理解を深める】　国内初となる食の安全・安心供給システムを水産業における「地域ハサップ」生産活動をプログラム化し、学習素材として提供しています。製品検査だけでなく原材料の生産から加工・流通に至るまでの全工程であらゆる危害の発生を分析し、その危害が起こらないように工程中の重要な管理点を監視するシステムを当地ではイクラや新巻鮭作り体験などを通し、学びを深めていただいております。

【平和学習　北方領土問題を知り考える】　終戦直後、旧ソ連軍が千島列島を侵攻し、北海道の間近までやってきたこと、北方四島に住んでいた約1万7千人の人々が着の身着のままで島を追われた史実については、あまり知られていないのが国内的な現状です。そして島で暮らしていた元島民の高齢化に伴い、引き揚げ当時の様子などその真実を直接聞くチャンスが年々難しくなってきております。日本にも戦争の影が見え隠れする昨今、今一度戦争を知らない若い世代に、オリジナルの学習ノートを併用した「事前学習―講話・グループワーク―事後学習」を通して、北方領土問題や平和を考える体験は、日本の領土が間近に見える当地ならではの平和学習プログラムです。

新巻鮭づくりを体験

【日本遺産「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～】　文化庁では、日本の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として認定しています。標津町、根室市、別海町、羅臼町の4市町に住む人々は、鮭と密接な関わりを持つ歴史を歩んできました。2020年6月19日、人と鮭の関わりの歴史を語る4市町のストーリー「鮭の聖地」の物語として日本遺産に認定されました。当町には、約4400個を超える古代の竪穴住居跡の無数のくぼみが連なり、日本最大の遺跡群「標津遺跡群　伊茶仁カリカリウス遺跡」が形成されています。遺跡からはあらゆる時代の竪穴から大量の鮭の骨が出土され、この地が毎年鮭を求めて各地から人々が集まる集積地だったことが分かっており、自然との長い共生を今に伝えています。「鮭の聖地」の物語の地域ストーリーを体感するプログラムを通して、より地域への学びを深めます。

北方領土学習講話

地元の食材を使った昼食を提供

【平和学習と教育民泊160人受け入れの推進】　当町では、約25年間、自然・産業・歴史・平和を素材としたエコ・ツーリズム事業を展開してきました。今後はより一層、探究学習やSDGsの取り組みが求められています。「鮭の聖地」の物語は1万年の人々の暮らしそのもの。各家庭（酪農家・漁家・一般家庭）での民泊で、現地の人と豊かな自然の中で共に暮らして交流を深めることで、生徒の「人間関係構築能力」や「コミュニケーション能力」を高めることができます。また、「食育、産業・地域、歴史文化、命の教育、生活規範・社会性」について学び、地域の持続可能性や生徒自身の生き方や将来のキャリアについて考えることができます。当町は探究学習や教育民泊の取り組みを深化させ、「観光SDGs」を推進していきます。

けさのさけ　北海道標津町　鮭の聖地一万年の源流
一般社団法人　南知床標津町観光協会
〒086-1653　北海道標津郡標津町南3条西1丁目1-6
TEL　0153-85-7226　FAX　0153-85-7227
URL　https://www.visitshibetsu.com/

岩手県・田野畑村

海と大地のワンダーランド 大地の恵みと大震災の教訓を学ぶ

岩手県沿岸北部に位置する田野畑村は、人口約2900人の農山漁村です。高さ200㍍前後の断崖が連なる北山崎や鵜の巣断崖など、三陸随一の景観を誇るだけでなく、大自然と共に生きる村民の暮らしを全身で学べる体験プログラムを長年にわたって提供してきました。

田野畑村の豊かな自然の中に築かれてきた歴史や文化、漁業、農業、酪農、林業、観光といった多彩な産業と人々の営み、そして大津波の教訓を胸にたくましく生きる村民の姿は、子どもたちにとってよき先生となります。体験プログラムの指導者は子どもたちとの一期一会を大切にし、素顔と本音で真剣に向き合います。

大地の成り立ちと漁師の営みを学ぶ「サッパ船アドベンチャーズ」

■組織と教育訓練　体験村・たのはたネットワークがコーディネート組織として手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し迅速、柔軟に対応しています。プログラムの指導者や民泊家庭は定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練を実施し安全確保に努めています。

■民泊（ホームステイ）　約30軒の受け入れ家庭で約100人（人数によりホテル羅賀荘との交互宿泊による受け入れ体制となります）の受け入れが可能です。山菜を収穫して魚をさばき、共に食卓を囲む体験は、自然の恵みを分け合ってきた人々の暮らしを学ぶ人間教育の原点です。

太平洋を望む「ホテル羅賀荘」

■宿泊ホテル　太平洋を望む好立地のホテル羅賀荘は、修学旅行の受け入れ実績も豊富。ホテルに隣接する交流センターは、来村セレモニーや体験プログラム、ワークショップなど多目的な活用が可能で、悪天候によるプログラム変更にも臨機応変に対応できます。

■机浜番屋群　番屋は漁師の作業小屋で、机浜番屋群は平成18年に「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選ばれました。東日本大震災の津波による流失後、多くの方の支援をいただき、以前の面影を復元する形で再建。現在は漁師の生業の拠点であるとともに、塩づくりや番屋料理などの体験観光の拠点施設となっています。

「大津波語り部」から生の声を聞き、もしもに備える

【お奨めプログラム】

◆サッパ船アドベンチャーズ　現役で漁に使われている小型漁船（サッパ船）に乗り、漁師の操縦で断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する迫力満点のツアーです。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

◆大津波語り部　平成23年3月11日に村を襲った大津波の脅威と教訓を物語る震災遺構「明戸海岸防潮堤」

また大津波は、住家や産業施設、多くの尊い命を奪い去りましたが、被災地では前向きに復興への歩みを進めてきました。当時を知るガイドから、脅威のみならず防災への備えと日常の大切さを学びます。

◆塩づくり体験　かつて三陸一帯で行われていた塩づくりを、昔ながらの製法で体験できます。起伏の激しい地形や冷たく湿った季節風「やませ」の影響で米作りができなかった三陸では、塩を内陸に運び穀物と物々交換をすることで命をつないできました。風土に根ざした営みを知ることは、日本全国の文化の多様性を理解することにも役立ちます。

NPO法人　体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・石井
〒028-8402　岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10　北山崎ビジターセンター内
TEL　0194-37-1211　FAX　0194-33-3355
E-mail taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL https://www.tanohata-taiken.jp/

埼玉県・秩父地域

東京に「ちかいなか」秩父 都心から90分、民泊家庭は80軒

埼玉県の秩父地域は、東京都心から約80㌔圏内（バス・電車で2時間以内）でありながら、ユネスコに登録された「秩父祭」に代表される歴史や伝統文化、素晴らしい自然、人情にあふれた地域です。

歴史の教科書の中では「和同開珎」「秩父事件」などが有名で、地学の面では〝日本地質学発祥の地〟として「日本ジオパーク」にも選ばれています。最近では人気アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」や映画「心が叫びたがっているんだ。」「空の青さを知る人よ」の舞台になったアニメの聖地でもあり、現在全国で一番歌われている卒業ソング「旅立ちの日に」の発祥の地でもあります。

自然を感じ、チームワークを育むラフティング

また、風光明媚で豊かな自然が残り、四季を通じた観光要素も多くある地域で、老若男女問わず、人気が高まっている観光地でもあります。

■教育民泊80軒　民泊では、約80軒の登録家庭が1軒3～4人の少数単位で生徒たちを迎え、そば・うどん打ちをはじめ、地域独特の生活を感じられる田舎料理を一緒に作り、食事や畑仕事など常に一緒に行動します。民泊で生徒たちをお預かりしている間、ほんものの家族同様、家庭の一員として田舎の生活体験や親密なコミュニケーションを図ります。

全員で料理して「いただきます」

■体験プログラム　学校・クラス単位で、首都圏の貴重な水資源となっている荒川を活用した川下りやラフティング、自然の中でのアドベンチャーや渓流釣り、田植え体験、日本百観音霊場である秩父札所34ケ寺で行われる座禅、竹細工、さらには、貴重な地質を生かしたジオパークや新電力を学べるSDGs体験など学校のニーズに合わせた自然、文化を体感できる豊富な体験プログラムも多数ご用意しています。

みんなで田植え体験

■コーディネート組織　「一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社」は、行政とも密接に連携しており、秩父医師会と連携した新型コロナウイルス対策や秩父消防本部にも受け入れの際には事前にお知らせし、万が一の緊急時にも、地域ぐるみで対応する準備もしています。その他、学校や家庭が望むニーズにも可能な限り対応いたします。

バスでは修学旅行で人気の高い国会議事堂から約90分、東京ディズニーランドから約110分。首都高・関越道経由で花園IC下車、国道140号を利用。鉄道ではJR山手線池袋駅から西武鉄道・特急ラビュー号で西武秩父駅まで約80分。都心から一番近くて、一度に約120人まで受け入れ可能なのが秩父地域の民泊です。

東京への修学旅行に〝ちかいなか秩父〟の民泊を取り入れ、人情あふれる田舎の生活体験をしてみませんか。

受け入れ家庭での農作業

一般社団法人　秩父地域おもてなし観光公社
〒368-0032　埼玉県秩父市熊木町9-5　秩父ビジネスプラザ
TEL　0494-26-6260　FAX　0494-26-7331
E-mail:info@chichibu-omotenashi.com
URL https://www.chichibu-omotenashi.com/